



卒業証書授与式

2月28日(火)、第40回卒業証書授与式が行われました。当日の朝は厳しい寒さでしたが、昼はすつきりと晴れ渡り、暖かな日差しも差していました。天候までもが40回生の門出を祝福してくれているようでした。

葉加瀬太郎の「エトピリカ」をBGMに、卒業生が入場し、厳かに式が始まりました。

卒業証書授与では、担任からの呼名に、一人ひとりが3年間の思いを込めて大きな返事で応えていました。総代は、中村友哉君です。彼は3年間こつこつ



と努力を重ね、しっかりと学習を積み重ねました。在校生の送辞では、堀田

蘭さんが部活動や学校行事などでの卒業生との思い出や神崎高校の次を受け継ぐ者としての決意を述べました。

続いて、卒業生を代表して高橋昂己君が答辞を読みました。3年間を振り返り、40回生や先生方との思い出や保護者への感謝、これからの人生の抱負を述べました。終盤に差し掛かった時、サプライズで学年団の先生方へ感謝の意を述べ、多くの方の涙を誘い、感動を与えてくれました。

その後、式歌や校歌斉唱では、卒業生は涙をこらえながら、在校生は先輩を送



り出すために心を一つに歌った歌は、鳥肌が立つほどでした。

退場は、前に立った学年の先生へ、卒業生が一列ずつ大きな声で「ありがとうございました！」と言って、各クラスの合唱コンクールの自由曲が流れる中、胸を張って退場していきました。

式後は、各クラスで一人ひとりが学校生活や未来への抱負を語り、涙あり、笑いありの最後のLHRでした。さらに、40回生全員での記念撮影や学年の先生への花束のプレゼントもありました。

最後は、部活動の後輩たちとの別れを惜しみながら、40回生は神崎高校を巣立ち、新天地に向けて新たな一歩を歩み出しました。



特色選抜



2月15日(水)、特色選抜が実施されました。冷え冷えとした空気の中、とても元気な受検者21名が受検しました。緊張した面持ちで会場に入った受検者は、小論文、そして面接に挑みました。

2月20日(月)の午後には合格者が発表され、12名が本校に合格しました。発表の瞬間、満面の笑みの受検者と保護者がともに喜び合ったり、携帯電話で報告し合う姿が見られました。4月には希望に胸を膨らませて神崎高校に入学することでしょう。一方で悔し涙を流した受検者は、諦めずに神崎高校に再度挑戦して欲しいと思います。

ちょっと一言 ◇卒業式から既に一週間が過ぎ、学校内では来年度に向けて着々と様々な準備が進められているのですが、40回生諸君の卒業に臨んでの清々しい態度は、今でも確かな余韻を残しています。また、先輩の晴れの門出を心から祝福しようという在校生の姿勢も、数多くのご来賓の皆様方からお褒めの言葉を頂きました。まさに「神高魂」のバトンタッチを見ることができ、嬉しく思っています。ありがとうございました。(H. H.)